

語り合う

生命誌の広場

中村桂子の
ちょっと一言

ラボ日記

表現スタッフ日記

さまざまな交流

生命誌のこれからを
考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見



中村桂子の「ちょっと一言」

生命誌から見る循環

投稿日：2016.05.18 ニックネーム：おかげさま

気仙沼の畠山さんの牡蠣の養殖で有名な名言『森は海の恋人』があるように

森も川も里も海も、すべて生命があって

私たち人間という種が生きていく上で

他の生命（生き物）の特性をよく知り、活かしてゆく（生態系のバランスを考えて）ことでしか、人間は生きにくいはずなのに

といった視点が元で、私はライフワークで、地元の川でつながる山から海の生態系を調査したり、どのようにしたら、山から海の生き物たちが、バランスを取り戻し、生き活きと暮らしてゆけるかまた、それが人間が活き活きと暮らしてゆける最良の知恵だとも考えています。

けいこ先生から見た、『循環』とは？
また、山から海の生き物たちの循環とは？

学者であるけいこ先生の見解を、参考にしたいくて。
お伺いすることで、ヒントがいっぱいあるかな～と考えました。

率直なご意見を、お聞かせ頂ければ幸いです。

お返事

投稿日：2016.05.19 名前：中村桂子館長

おっしゃるとおりです。生きものたちが有限の地球で38億年も続いてこられたのは太陽の光と水の中ですべてを循環させてきたからです。循環を断つような文明から脱却し、循環の中での新しい文明をつくるのが、生命誌の願いの一つです。



中村桂子の「ちょっと一言」

生命と自然

投稿日：2016.05.13 ニックネーム：自然側に立って

生命と自然の関係で人間にとっては生命とは不可思議かもしれませんが自然側から見たら何のこともないのかもしれませんが。そもそも生命との認識もないし、今も昔も、将来もそうだと思います。物理化学的にそうただけとっています。偶然では再現性は期待できないし、確率的にはありそうもないただ1回限りの奇跡だ、と人間がそう思っているだけで条件がそろったから人間が生命と言っているものが出来たのだと思います。極端に言って生命の起源の何か法則性を求めることは無意味ではないかと思っています。宇宙についても自然定数の値が偶然ではありえない確率だから、無数の宇宙がありその一つが我々の宇宙と言ひ出し安心する始末。自然側にとっては物質をエネルギー的に安定する放出をしていっただけのことではないかと思っています。生命や宇宙の起源は神様



新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

の意志でもなく、偶然でもない、ただ、ただ初期時における騒がしい混乱からの安定化を自然側が選択した結果だったと思っていますが。

お返事

投稿日：2016.05.13 名前：中村桂子館長

生命誕生をふしぎがっているのは人間であり、人類が生れるまではそれをふしぎがることはなかったのはおっしゃる通りです。生命誌ではすべてを人間中心で考えることはしませんが、人間のもっているふしぎに思う気持は大切にしたいと思うのです。「どのようにして生きものは生れたのだろう」。自然現象の一つにすぎないとして放り出さずに考えていきたいと思っています。



展示・映像

研究館の存在をもっと…

投稿日：2016.05.01 ニックネーム：地元サポーター

高槻在住ですが、生命誌研究館は名前だけしか知りませんでした。中村先生をテレビで拝見し、ご本を数冊読ませていただいた後、初めて見学しました。
こんな素敵な場所だったなんて!!
自分の存在や、命のつながりを俯瞰し思いをはせることのできる、またとない場所でした。大きな視点で世界を捉えると、現実には直面している問題も、より良くするための方向性が見えやすくなると思います。中村先生が平和について言及されることにも、大きくなついています。
私の周りでも行ったことのない人がほとんどで、今ではもったいなく思います。催し物など、もっと告知していただけませんか？
映画も早く見たいので、地元で開催されるのを待っています。
私は研究者でなく一市民でしかありませんが、微力ながら応援して行きたいと思っています。

お返事

投稿日：2016.05.10 名前：中村桂子館長

応援のメール本当にありがとうございます。23年目で初めていらしていただくという状況はいけませんね。皆さんに知っていただくにはどんな方法をとるのがよいかお教えいただくとありがたく思います。まず、お近くの方に「行ってごらん下さい」とお声をかけて下さると輪が広がると思いますので、是非お願いします。私達も告知のよい方法探しをいたします。これからもよろしく願いいたします。

▲ ページの先頭へ

サイトのご利用について | プライバシーポリシー | サイトマップ | アイアポリシー | サイトマップ

BRH JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.